

久元祐子「ピアノコンサート」

オール・モーツァルト・プログラム

あいまに 池内紀先生との対談つき

平成29年 8月19日(土) 午後6時30分開演(6時開場)

沼津市若山牧水記念館 ラウンジ (沼津市千本郷林1907-11)

入場料 3,000円 (沼津牧水会会員 2,000円)

<プログラム>

- ♪ 幻想曲 ニ短調 KV397
- ♪ グレトリの歌劇「サムニウム人の結婚」の合唱曲「愛の神」による8つの変奏曲 へ長調 KV352
・・・ <池内紀先生との対談> ・・・
- ♪ ピアノ・ソナタ イ長調 KV331 「トルコ行進曲付き」(2015年自筆譜発見に基づく版による)
- ♪ ピアノ・ソナタ へ長調 KV332
・・・ <池内紀先生との対談> ・・・
- ♪ ピアノ・ソナタ 変ロ長調 KV333



◆ 久元 祐子 (ピアニスト)

東京芸術大学音楽学部(ピアノ専攻)を経て同大学大学院修士課程を修了。ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、新日本フィル、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。ベーゼンドルファー(1829年製)、プレイエル(1843年製)、エラール(1868年製)などを所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追及する。2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使っの演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾りベーゼンドルファー・アー

ティストの称号を受ける。2012年、2014年イタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。これまでCD12作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン“テレーゼ” “ワルトシュタイン”」はグラモフォン誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」(音楽之友社)、「原典版で弾きたい! モーツァルトのピアノ・ソナタ」(アルテスパブリッシング)、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとプレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」(いずれも学研プラス)など 国立音楽大学准教授 日本ラトビア音楽協会理事、PTNA評議員

久元祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>

◆ 池内 紀 (ドイツ文学者・エッセイスト)

1940年姫路市生まれ。主な著書に『ウィーンの世紀末』、『海山のあいだ』(講談社エッセイ賞)、『ゲーテさんこんばんは』(桑原武夫学芸賞)、『日本の森を歩く』、『二列目の人生 隠れた異才たち』、『本は友だち』、『恩地孝四郎 一つの伝記』(読売文学賞)、『カント先生の散歩』、『ニッポン周遊記』、『本は友だち』、『ニッポン旅みやげ』、『亡き人へのレクイエム』、『旅の食卓』、『きょうもまた好奇心散歩』など。訳書に『グリム童話集』、『ファウスト』(毎日出版文化賞)、『カフカ小説全集』(日本翻訳文化賞)など。ほかに『池内紀の仕事場』全8巻。若山牧水『新編 みなかみ紀行』(岩波文庫)の編者でもある。



主催 公益社団法人沼津牧水会 共催 一般社団法人沼津倶楽部 後援 沼津市教育委員会
予約・問合せ 055-962-0424 Eメール bokusui@thn.ne.jp (URL) <http://web.thn.jp/bokusui/>